

なのはな通信



六ツ美中部小学校
校長室だより NO53
12・02・02



ちゅうぶだいすきはっぴょうかい



先日は「ちゅうぶだいすきはっぴょうかい」の参観ありがとうございました。インフルエンザの大流行のさなか、練習や準備に苦勞した学級も多かったのですが、当日は比較的欠席者が少なく無事に発表会を開催することができました。この1年の生活科や総合の学習の成果を、観ていただきました。これらの学習活動は、調査・見学・体験を中核にしていますが、そこから導いた自分の思いや考えをいろいろな形で表現し、人に伝え発信していくことも重要な能力と考えています。とりわけ、これからの持続可能な社会の担い手として期待される子どもたちには、「生きる力」のもととなる必須の能力といえるでしょう。各学年のテーマと発表会の様子をお伝えします。また、この日同時に「PTA作品展」も行われました。



1年 「もりもりにこにこ」・たくさんべんきょうしたね・



2年 「見つけたよ!ちゅうぶのすてきなもの・ひと・ところ」



4年 「作戦Rでごみをへらせ」



3年 「昔の学区のようすを調べよう」



5年 「調べよう自然のつながり」



6年 「知ろう温暖化メカニズム、守ろう地球」



4組 「4組の四季」



PTA作品展

大先生のイスラマボード通信 NO3

昨年末に一時帰国された大先生が、1月4日に学校を訪ねてくれました。少しやせたようですが元気なように安心しました。日本の食べ物のおいしさと、平和な暮らしのすばらしさをしみじみ語っていかれました。下の文は、大先生が厳しい環境の中でもまじめに生徒に向き合い、奮闘する様子を綴ったものです。さすがですね。1月6日には、早くも任地に戻っていかれました。あと、1年と少しになりました。



緊張感の中で

イスラマボード日本人学校

鈴木 大

ここパキスタンは、常にテロの脅威と隣り合わせの国だ。治安もよいとは言えず、私が勤務するイスラマボード日本人学校は高い塀に囲まれ、有刺鉄線で上部が固められている。学校を守る警備員も八名を数え、常に銃を所持している。また、避難訓練の内容も、当地独特のものがあり、地震や火災といったもの他に「テロリスト乱入時」「通学バス襲撃時」など、日本では考えられないような訓練を実施する。私は危機管理担当として、最上級生である中三のA子の態度が気になっていた。

本校の児童生徒は全員で十八名。ほとんどが、親の仕事の都合でここに来ている子である。A子も例に漏れず、ことあるごとに「日本に帰りたい」と口にしてきた。当然、ここの独特の避難訓練には「何でこん

なことをしなければいけないのか」という思いが強く、走って逃げずに歩いて避難室に移動したり、バスでの実習ではヘルメットを脱いでみたりした。注意すればきちんとするが、教師がいなくなるとやらない。成績はとても優秀のだが、どこか人を見下したような言い方をする事があり、冷めた態度を見せることで自分を守っている気がした。

そんな態度や仕草が普段から気になっていった。私は、A子に対し叱るのは逆効果になると思ったので、「もし事件があったら、下級生が頼るのはA子なんだぞ。そのときのためにしっかりやっておかないとな」と、語りかけるように話していた。不服そうな顔を浮かべながらも、A子はうなずいた。

温度計が四十五度を指す六月の暑い日に事件は起きた。「バスが、交通事故に巻き込まれました。」

通学バスに備え付けてある、無線機からのA子の声により、職員室に緊張が走った。ここでは交通事故にも群衆が集まり、「外国人」であるA子たちは場合によって、命の危険にさらされる。A子に子供たちの状況を聞くと、「下級生たちは動揺して泣いてしまっています」という。「警察や先生たちも現場へすぐに行きます。それまでA子が、避難訓練通りに、

下級生を励ましてあげてください」「分かりました。がんばります」A子の声も震えていた。

幸いにも大事にはいならず、A子たちは落ち着いて我々を待つことができた。動揺していたという下級生も笑顔で、「私が泣いていたらA子さんがそばにきて、大丈夫だよと励ましてくれたの」と、うれしそうに話した。私はA子に、

「怖かったのによくがんばったね。A子が下級生を励まし、みんなの手本となったおかげで、助かったよ。」と、感謝の気持ちを伝えた。A子はほっとしたのか涙を浮かべ、はにかむような笑顔を見せた。

その日以来、A子は常に下級生の手本となる立派な行動を示すようになり、学校の顔として活躍している。

